平成20年度高知県環境審議会総合部会（議事概要）

日時等：平成20年6月12日（木）14時～16時 於：高知県庁西庁舎 1階北会議室

出席者：内田部会長、岡村委員、福留委員、水口委員、横川委員、依光委員

事務局（安岡副部長、元吉課長、鍋島補佐、大寺補佐、塚本補佐、市川補佐、藤村補佐、竹崎チーフ、和田、弘瀬、角田）

○事務局から計画案の概要説明後、審議。以下敬称略。

【第1章】

特になし

【第2章】

○市民意識の意味について（P4）

（水口委員） 「市民意識」という表現があるが、県の計画では「県民意識」という表現のほうがよいのではないか。

（福留委員） 土木学会でもこの用語は、定義されたと思うが、「市民」は「住民」と区別されてコミュニティや共同体を構成して維持・発展させていく主体といった意味で使われている。

（内田部会長） ここで使われている「市民」とは、高知市民や須崎市民といったものではなく、社会の将来のことを考慮できる人という意味で、「市民」と使われているのではないか。

（横川委員） 自立した人間を「市民」（例えば地球市民）として捉え、普遍的な人間の価値を「市民」という。逆に住民を意識したときは町民や市民といった表現になる。環境問題は普遍的な「市民」として意識をするため、県民とは使い分けを行ってはどうか。

（内田部会長） 「市民意識」の注釈を付けることとしてはどうか。

○持続可能な社会の実現について（P4）

（内田部会長） ローカルアジェンダの内容について、実現ができていないので追加してもよいのではないか。

（福留委員） 一応検討されて発表したが、具体的な取組みが実行されていない。

（安岡副部長） 高知のローカルアジェンダは平成9年2月に策定されている。

（内田部会長） ここでは最近の国際的な動向を書くこととして、ローカルアジェンダについては見送ることとし、原案どおり「持続可能な開発のための教育の10年」（ESD）のままとする。

【第3章】

○地球温暖化対策の削減目標について（P 18）

（水口委員） 県内の地球温暖化対策の目標として、基準年比で6%削減することとしているが、実際、現時点でみた場合には10%以上削減する必要がある。具体的にそういった数値を出し、現在の状況は前と比べて厳しいことを明記することによって、環境に関する意識が高まるのではないか。

（塚本補佐） 環境分野の個別計画として位置付けている地球温暖化対策地域推進計画の方で、具体的な数値を示している。

（横川委員） 6%といいながら、実際増えている分を含め、10%以上減らさなくてはいけないため大変である、ということをごどこかに入れておくべき。

（水口委員） 地球温暖化対策地域推進計画の記述のところへ、実際に削減する必要がある数値を出すことは可能ではないか。

（安岡副部長） 高知県全体でみた場合は、森林を整備したことによりすでに削減が達成されている部分が多くあることや、今年度から森林環境税による森林整備を行うなど大幅に削減することができる。残った分を民生部門等で取り組んでいけば、県全体としては達成できると考えている。

（内田部会長） 18ページ最終の2行（森林吸収関係）は民生部門にいくまでの話なので、民生部門の後に書くのではなく、前段にある県内の地球温暖化対策の文章に移動したほうがよいのではないか。

県としては森林吸収や民生部門も含めて10%以上削減する必要があることは事実なので、※印で9行目の文章の後ろに実際の削減数値を出してはどうか。（P 35に記載されている現在の状況を追加する）→書き方は事務局で調整

【第4章】

○県民会議（仮称）の設立について（P 22）

（内田部会長） いきなり県民会議の名称がでているので分かりづらい。前段に説明する文言を追加してはどうか。→（地球温暖化を防止するため、県民、事業者、行政等が参加する県民会議（仮称）を設立し・・・）

○公共交通機関の利用促進について（P 23）

（事務局） 文章のつながりをよくするため、一部修正を行う。

（環境やまちづくりなどの幅広い視点から、環境負荷の低い鉄道、バスなどへの利用拡大を図るため、パークアンドライドやノーマイカーデーなど、公共交通機関を将来にわたり維持していくための方策を検討します。）

○固有名詞（事業名や地域名）の記載について（P24）

（水口委員） 具体的な固有名詞は、環境基本計画で出すよりは、各個別の計画で出すほうがよいのではないかと。県の関与した事業を出しているが、市町村の独自の計画や事業もあるので、個別に載せるのであれば、市町村の事業も調べたうえで載せてはどうか。

（安岡副部長） 県が直接、製造などの事業に予算を出すものではなく、市町村なり民間が行うものであるが、一緒になって排出量取引の仕組みを作っていくということから、記載をさせてもらっている。

（内田部会長） いきなり例示がきているので限定的に見える。最初に排出量取引地域モデルの説明があって、その後に例示としてモデル的にやっているとか支援するといった表現に修正してはどうか。

○清流保全の先駆的な取組みについて（P26）

（依光委員） 物部川での多様な団体の参画では、清流保全に限った話ではなく、シカの食害対策を含めた総合的な取組みであるので、タイトルとは合っていない。

（岡村委員） 例示として物部川や四万十川をだすのはよいが、それまでにあった歴史から現在に至るまでの流れがあるので、そういった表現を追加してはどうか。→タイトルも再考

（内田部会長） 先ほどの排出量取引地域モデルの項目と同様に、山・川・海の水循環と人々の暮らしを大切にするという前振りがあって、その後に例示として出すような表現に修正してはどうか。

○ゴミ問題への取組みについて（P28）

（内田部会長） レジ袋削減の取組みは、他の項目とのバランスから言うと「ア ゴミの発生抑制について」に吸収して記載したほうがよいのではないかと。また、有料化やマイバックという限定的な表現は削除してはどうか。→（廃棄物の削減や温暖化防止など、県民の意識を高め、削減効果も高める手段として、レジ袋等容器包装ゴミの削減に向けた取組みを、事業者やNPO、行政等と連携しながら推進します。）

○ゴミの適正処理や不法投棄・散乱ゴミ対策について（P29）

（内田部会長） 県内の不法投棄や散乱ゴミを削減するとなっているが、削減するという表現はおかしい。

（水口委員） 発生を抑制するという表現に修正してはどうか。

○環境保全型農業の推進について（P 30）

（事務局） 文章のつながりをよくするため、一部修正を行う。

（家畜糞尿などの堆肥化による循環利用の推進や天敵等を利用した I P M（Integrated Pest Management）技術による化学農薬の低減など、環境への影響を少なくし持続性をもつ「環境保全型農業」を推進します。）

○木質バイオマスボイラーの開発について（P 30）

（水口委員） 木質バイオマスボイラーの開発はすでに民間が行っているのではないかと。さらにいろいろな機種を開発している動きがあるのか。また、計画の中で進めていく考えがあるのか。

（安岡副部長） 確かにいろいろなタイプのボイラーが開発されているが、まだまだ数が少なく、高知県内で使えるようなボイラーも低コスト化がされておらず、実用化まではまだまだ難しい状況である。県でも改良に向けて開発の研究や民間の支援に取り組んでいるが、まだまだこれからの状況である。

○各分野の数値目標について（P 35）

（内田部会長） 参考に数値目標を載せているが、計画に基づく3カ年の数値目標なので、重要などころではないか。「参考」ということではなく、タイトルを変更してはどうか。（3カ年の目標であり、評価を行っていく旨を記載）

【第5章】

○各主体の役割について（P 38）

（福留委員） 市民活動の向上と発展を支援するための記載を追加してはどうか。例えば、市町村の役割の中へ市民活動を育てる記述を入れるなど。

（依光委員） 各主体の役割については特にこのままでもよいのではないかと。

（内田部会長） 県の役割の中に人材の育成があり、市町村の役割の中にも県に準じた施策を展開することと記述されているが、一度、事務局で検討していただく。

○推進体制の整備、各主体との連携・協力について（P 39）

（事務局） 文章の表現について、一部修正を行う。

（本計画を推進するため、庁内においては横断的な検討組織の活用による情報の共有を図るとともに、課題解決のための体制づくりに取組みます。

また、県民やNPO、事業者等が取組みに主体的に参加・参画し、連携・協働した取組みを推進します。）

【全体】

○タイトルと中味の整合性

（内田部会長）全体を通して、タイトルの後にいきなり具体例がきても何を言いたいのか分からなくなってしまうので、その前段に1～2行の前ふりの説明があれば全体が分かりやすくなるので、再度全体を確認してほしい。

【今後のスケジュール】

（内田部会長）本日の意見を踏まえ、修正分を各委員にメール等で提示し、確認する。

その後、最終的な全体の調整を部会長や副部会長、審議会会長で行い、答申（案）を作成することとしたい。

（元吉課長）答申をいただいた後、7月に県議会へ報告後、策定及び公表することとしたい。

（16：00閉会）